

# 2011年度「論理と意味論」試験—解答

出題者: 白井 英俊 (中京大学情報理工学部)

2012年1月24日 4限目 (14:30–15:30, 824教室)

- I.  $p, q, r$  を任意の命題を表わす命題変項とすると、以下の論理式が命題論理の恒真式であることを真理値表を用いて 証明せよ。

$$\{(p \rightarrow q \vee r) \wedge \sim r\} \rightarrow (p \rightarrow q)$$

解答: 与式の真理値表は以下のように求められる。

$p$	$q$	$r$	$\alpha =$ $q \vee r$	$\beta =$ $p \rightarrow \alpha$	$\sim r$	$\gamma =$ $\beta \wedge \sim r$	$\delta =$ $p \rightarrow q$	$\gamma \rightarrow \delta$
T	T	T	T	T	F	F	T	T
T	T	F	T	T	T	T	T	T
T	F	T	T	T	F	F	F	T
T	F	F	F	F	T	F	F	T
F	T	T	T	T	F	F	T	T
F	T	F	T	T	T	T	T	T
F	F	T	T	T	F	F	T	T
F	F	F	F	T	T	T	T	T

以上から、どのモデルにおいても与式は真となることが分かった。ゆえに、与式は恒真式である。

- II.  $Boy, Girl$  を一項述語、 $Like$  を二項述語とする (例えば、 $Boy(x)$  を「 $x$  は男の子である」、 $Girl(x)$  を「 $x$  は女の子である」、 $Like(x, y)$  を「 $x$  は  $y$  が好きである」をそれぞれ表す述語と考えよ)。そして、

- (A)  $\forall x(Boy(x) \vee Girl(x))$   
(B)  $\forall x(Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$   
(C)  $\exists y(Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$

とする。

モデルを  $M = \langle D, F \rangle$ 、定義域  $D$  を  $\{a, b, c, d, e\}$  とする。また解釈関数  $F$  について、 $F(Boy) = \{a, b\}$ 、 $F(Girl) = \{c, d\}$ 、 $F(Like) = \{\langle a, c \rangle, \langle a, e \rangle, \langle b, d \rangle, \langle b, e \rangle, \langle c, a \rangle, \langle d, a \rangle\}$  であるとしたとき、(A), (B), (C)、それぞれの真理値を求めよ (注意: 値を求める過程も記せ)。

解答:

(A)  $\forall x(Boy(x) \vee Girl(x))$

与式がモデル  $M$  で真であるための必要十分条件は、任意の割り当て関数  $g$  に対して  $M, g \models \forall x(Boy(x) \vee Girl(x))$  であること。そしてそのための必要十分条件は、 $g$  のどの  $x$  変種  $g'$  に対しても  $M, g' \models (Boy(x) \vee Girl(x))$  であること。ここで  $D = \{a, b, c, d, e\}$  であるから、 $g_a(x) = a$ 、 $g_b(x) = b$ 、 $g_c(x) = c$ 、 $g_d(x) = d$ 、 $g_e(x) = e$  であるような  $g_a, g_b, g_c, g_d, g_e$  を  $g$  の  $x$  変種とすると、先の条件はすなわち「 $M, g_i \models (Boy(x) \vee Girl(x))$  がどの  $g_i$  に対しても成り立つこと」(ここで、 $g_i$  は  $g_a, g_b, g_c, g_d, g_e$  を表す) と言い換えられる。

ここで  $M, g_a \models (Boy(x) \vee Girl(x))$  であるための必要十分条件は、 $M, g_a \models Boy(x)$  または  $M, g_a \models Girl(x)$  である。

$g_a(x) = a \in F(Boy)$  から  $M, g_a \models Boy(x)$ 。ゆえに、 $M, g_a \models (Boy(x) \vee Girl(x))$  である。

同様にして、 $M, g_b \models (Boy(x) \vee Girl(x))$ 、 $M, g_c \models (Boy(x) \vee Girl(x))$ 、 $M, g_d \models (Boy(x) \vee Girl(x))$  が成り立つ。しかし、 $M, g_e \not\models (Boy(x) \vee Girl(x))$  である。

以上から、「 $g$  のどの  $x$  変種  $g'$  に対しても  $M, g' \models (Boy(x) \vee Girl(x))$ 」とはならないことが分かった。ゆえに、与えられたモデル  $M$  における与式の真理値は偽である。

(B)  $\forall x(Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$

解答: 与式がモデル  $M$  で真であるための必要十分条件は、任意の割り当て関数  $g$  に対して、 $M, g \models \forall x(Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$  であること。そしてそのための必要十分条件は、 $g$  の任意の  $x$  変種  $g'$  に対して  $M, g' \models (Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$  であること。

ここで  $D = \{a, b, c, d, e\}$  であるから、 $g_a(x) = a$ 、 $g_b(x) = b$ 、 $g_c(x) = c$ 、 $g_d(x) = d$ 、 $g_e(x) = e$  であるような  $g_a, g_b, g_c, g_d, g_e$  を  $g$  の  $x$  変種とすると、「 $M, g_i \models (Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$  がどの  $g_i$  に対しても成り立つこと」(ここで、 $g_i$  は  $g_a, g_b, g_c, g_d, g_e$  を表す) と言い換えられる。

ここで  $M, g_a \models (Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$  であるための必要十分条件は、 $M, g_a \not\models Boy(x)$ 、または、 $M, g_a \models \exists y Like(x, y)$  である。 $g_a(y) = a \in F(Boy)$  から  $M, g_a \models Boy(x)$ 。そこで、 $M, g_a \models \exists y Like(x, y)$  であるかどうかを調べる。そのための必要十分条件は、 $g_a$  のある  $y$  変種  $g'$  に対して、 $M, g' \models Like(x, y)$  となること。これは、 $g_a$  の  $y$  変種  $g_{ac}$  を考えると (ただし  $g_{ac}$  は  $g_{ac}(x) = a, g_{ac}(y) = c$  となるような割り当て関数)、この式は成り立つ。ゆえに、 $M, g_a \models \exists y Like(x, y)$  である。したがって、 $M, g_a \models (Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$  が成り立つ。

同様にして、 $M, g_i \models (Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$  がどの  $g_i$  (ここで  $g_i$  は  $g_a, g_b, g_c, g_d, g_e$  を表す) に対しても成り立つことが言える。

以上から、「任意の割り当て関数  $g$  に対して、 $M, g \models \forall x(Boy(x) \rightarrow \exists y Like(x, y))$  である」ことが示されたから、与えられたモデル  $M$  における与式の真理値は真である。

(C)  $\exists y(Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$

解答: 与式がモデル  $M$  で真であるための必要十分条件は、任意の割り当て関数  $g$  に対して、 $M, g \models \exists y(Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$  であること。そのための必要十分条件は、 $g$  の任意の  $y$  変種  $g''$  に対して  $M, g'' \models (Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$  が成り立つこと。

ここで  $D = \{a, b, c, d, e\}$  であるから、 $g_a(y) = a, g_b(y) = b, g_c(y) = c, g_d(y) = d, g_e(y) = e$  であるような  $g_a, g_b, g_c, g_d, g_e$  を  $g$  の  $y$  変種とすると、 $M, g_i \models (Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$  がある  $g_i$  に対して成り立つこと (ここで、 $g_i$  は  $g_a, g_b, g_c, g_d, g_e$  を表す) と言い換えられる。

ここで  $M, g_a \models (Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$  であるための必要十分条件は、 $M, g_a \models Girl(y)$ 、かつ  $M, g_a \models \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y))$  であること。ここで  $g_a(y) = a \notin F(Girl)$  から  $M, g_a \not\models Girl(y)$ 。ゆえに、 $M, g_a \not\models (Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$

同様に、どの  $g_i$  (ここで  $g_i$  は  $g_b, g_c, g_d, g_e$  とする) に対しても  $M, g_i \not\models (Girl(y) \wedge \forall x(Boy(x) \rightarrow Like(x, y)))$ 。ゆえに、与えられたモデル  $M$  における与式の真理値は偽である。

III. 以下のそれぞれの式に対し、同値な冠頭連言標準形を求めよ。必ず計算過程を示すこと。

$$(1) \forall x\{P(x) \rightarrow \exists y \sim (Q(x, y) \rightarrow P(y))\}$$

解答:

- (空虚な量化子の削除) — 適用されない

- (変項の付け変え) — 適用されない

- (含意の扱い)

$$\forall x\{\sim P(x) \vee \exists y \sim (\sim Q(x, y) \vee P(y))\}$$

- (否定記号の扱い)

$$\implies \forall x\{\sim P(x) \vee \exists y(\sim\sim Q(x, y) \wedge \sim P(y))\}$$

$$\implies \forall x\{\sim P(x) \vee \exists y(Q(x, y) \wedge \sim P(y))\}$$

- (量化子の移動)

$$\forall x \exists y\{\sim P(x) \vee (Q(x, y) \wedge \sim P(y))\}$$

- (連言形へ)

$$\forall x \exists y\{(\sim P(x) \vee Q(x, y)) \wedge (\sim P(x) \vee \sim P(y))\}$$

$$(2) \exists x[\forall z(\exists yP(x, y) \rightarrow Q(x)) \rightarrow \{\exists yQ(y) \rightarrow R(x)\}]$$

解答:

- (空虚な量化子の削除)  
 $\exists x[(\exists yP(x, y) \rightarrow Q(x)) \rightarrow \{\exists yQ(y) \rightarrow R(x)\}]$
- (変項の付け変え)  
 $\exists x[(\exists yP(x, y) \rightarrow Q(x)) \rightarrow \{\exists zQ(z) \rightarrow R(x)\}]$
- (含意の扱い)  
 $\exists x[\sim(\sim \exists yP(x, y) \vee Q(x)) \vee \{\sim \exists zQ(z) \vee R(x)\}]$
- (否定記号の扱い)  
 $\implies \exists x[(\sim \sim \exists yP(x, y) \wedge \sim Q(x)) \vee \{\forall z \sim Q(z) \vee R(x)\}]$   
 $\implies \exists x[(\exists yP(x, y) \wedge \sim Q(x)) \vee \{\forall z \sim Q(z) \vee R(x)\}]$
- (量化子の移動)  
 $\exists x \exists y \forall z [(P(x, y) \wedge \sim Q(x)) \vee \sim Q(z) \vee R(x)]$
- (連言形へ)  
 $\exists x \exists y \forall z [(P(x, y) \vee \sim Q(z) \vee R(x)) \wedge (\sim Q(x) \vee \sim Q(z) \vee R(x))]$

$$(3) \forall x \sim \forall u[\exists zP(u, z) \wedge \exists y\{Q(u, y) \rightarrow Q(y, u)\}]$$

解答:

- (空虚な量化子の削除)  
 $\sim \forall u[\exists zP(u, z) \wedge \exists y\{Q(u, y) \rightarrow Q(y, u)\}]$
- (変項の付け変え) — 適用しない
- (含意の扱い)  
 $\sim \forall u[\exists zP(u, z) \wedge \exists y\{\sim Q(u, y) \vee Q(y, u)\}]$
- (否定記号の扱い)  
 $\implies \exists u \sim [\exists zP(u, z) \wedge \exists y\{\sim Q(u, y) \vee Q(y, u)\}]$   
 $\implies \exists u[\sim \exists zP(u, z) \vee \sim \exists y\{\sim Q(u, y) \vee Q(y, u)\}]$   
 $\implies \exists u[\forall z \sim P(u, z) \vee \forall y \sim \{\sim Q(u, y) \vee Q(y, u)\}]$   
 $\implies \exists u[\forall z \sim P(u, z) \vee \forall y\{\sim \sim Q(u, y) \wedge \sim Q(y, u)\}]$   
 $\implies$
- (量化子の移動)  
 $\exists u[\forall z \sim P(u, z) \vee \forall y\{Q(u, y) \wedge \sim Q(y, u)\}] \exists u \forall z \forall y[\sim P(u, z) \vee \{Q(u, y) \wedge \sim Q(y, u)\}]$
- (連言形へ)  
 $\exists u \forall z \forall y\{(\sim P(u, z) \vee Q(u, y)) \wedge (\sim P(u, z) \vee \sim Q(y, u))\}$